

## NPO と行政の協働会議

## 2006 年度 第 4 回 全体会議事録

開催日時： 2007年3月29日(木) 17:00～18:00

開催場所： ひょうごボランティアプラザ セミナー室

## 出席者(幹事等名簿):

(敬称略)

区分	氏名	所属団体	出欠
NPO 部会	黒田 裕子	NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク	×
	坂本 利明	NPO法人グリーンアース in 淡路	
	杉野 慶一	NPO法人 Green Alliance	
	野崎 隆一 (吉富幹事代理)	ひょうご市民活動協議会	
	能島 裕介	NPO法人ブレンヒューマニティー	
	前川 裕司	NPO法人コムサロン21	
	松岡 孝司	NPO法人アップストリーム障がい者支援センター	×
	寺本 弘伸	NPO法人宝塚NPOセンター	×
	山崎 勲	NPO法人シンフォニー	
	河口 紅	NPO法人さんぴいす	×
	竹村 太佑	NPO法人HINT	×
	貫名 康雄	NPO法人福祉住環境サポートセンター	
	山川 茂光	NPO法人いきいき将来設計工房	×
	山田 幸雄	NPO法人ASUネット	×
	山下 満	NPO法人環境カウンセラー会ひょうご	×
	石野 靖弘	NPO法人IMMC	
	田辺 克之	神戸フリースクール	×
	山崎 清治	NPO法人生涯学習サポート兵庫	
	田中 一臣	NPO法人ネイティブ淡路島	×
	真田 由美子	NPO法人マザーズサポーター協会	
平 真弓	NPO法人宅老所光明の家		
牛建 文彦	NPO法人ピア・しんぐう	×	
行政 メンバー	畑 正夫	兵庫県県民政策部政策局ビジョン課長	×
	鬼本 英太郎	兵庫県県土整備部復興局復興推進課長	
	藤原 純一	兵庫県県民政策部地域協働局参画協働課長	
	青木 秀彰	兵庫県産業労働部しごと局しごと支援課長	×
事務局 プラザ	小森 星児	ひょうごボランティアプラザ所長	
	市田 秀夫	ひょうごボランティアプラザ事務局長	
	稲垣 郁子	ひょうごボランティアプラザ事務局次長兼交流支援部長	
	岩根 登	ひょうごボランティアプラザ交流支援部副部長	

協 議 題	( 1 ) 専門部会からの中間報告について
	( 2 ) 今後の運営について
	( 3 ) その他

## 協 議 内 容

### 議事概要

司会 ( 能島幹事 )

所長あいさつ

NPOと行政の協働はプラザとしても力を入れているところだが、県はともかくとして、市町とNPOとの協働では進んでいるところもあれば、まだこれからというところもある。市町で設置するボランティア活動の拠点づくりはかなり進んでいるようだ。先日も市町で拠点を持っている所のお話を伺ったが、中にはまだ半額助成とか、人件費その他間接経費は助成しないというところもあった。NPOだからとかすみを食べないといけないわけではないと思う。こういうところについて、NPOの方から声を上げていただかないと、我々もボランティア活動支援の趣旨をお伝えすることも難しいと思う。そういう意味でも、協働会議の中でこういう話題も取り上げていただいて、支援方策について知恵を拝借できればと思う。

( プラザ人事異動について紹介： 稲垣、岩根は異動。担当は笹井となる。 )

### 議事

#### ( 1 ) 専門部会からの中間報告について

( 能島幹事から、資料に基づき経過、趣旨等を説明。来年度はこれを基にNPOと行政で試行的にモデル評価をして問題点を専門部会で拾い、修正等していきたい。藤原幹事から補足説明。 )

2001年に神戸市で、事例30程度について、NPOと行政の評価の食い違いをディスカッションした。そういう形のものにすればどうか。

( 所長 ) 説明の中でプラザが仲介役もという話があった。評価の範囲をどう考えているのかわからないが、協働事業助成のものは入らないし、他府県でも第三者評価のようなシステムを持っているところがないように、その他のものもプラザで仲介するのは困難である。

( 能島幹事：評価シートの交換や第三者評価も専門部会の議論の過程での話であり、全く結論がでたものではなく、来年度の議論の中で検討していきたい。 )

#### ( 2 ) 今後の運営について

( 稲垣 ) 前回2月26日のNPO部会で今年度の振り返りや今後の運営のあり方などについて、いろいろご意見をいただいた。今年度の協議テーマを公募して、グループで話し合う形は2年間行ってきて、先の評価システムのように専門部会で継続して検討しているテーマもあるが、テーマの内容も個別事業についてのものも多く、なかなか協働会議の中で会議終了後もフォローしていくことも難しい状況であり、提案者も協働会議のメンバーにも消化不良となっている状況である。そのようなことから、テーマ募集への応募も少なくなっている(第3回全体会では0だった)。

また、幹事の意味や役割についてもあいまいな状況であり、幹事の方が会議参加への意義

が見いだせず、やりがいを感じていただけないこともあると思うが、出席率も非常に悪い状況にある。

参画と協働という分野自体が新しいものなので、これを進めていくためにNPOと行政が自由な意見交換等を行っていく、この協働会議の運営にあたっては、試行錯誤を重ねながら、絶えずよりよい形にしていく努力を積み重ねていくことが必要であると考えている。

そこで、協働会議の根幹的なものを変更するものではないが、幹事さんの意義や役割を明確にし、幹事の構成も含めて、来年度の具体的な運営方法を現在の運営幹事さん等と検討、整理したうえで、来年度は運営していきたい。現運営幹事、プラザ、参画協働課で検討して来年度の形が決まれば、またご連絡はさせてもらいたい。

運営は抜本的に変える必要はあると思う。5年前と同じような延長線でやっているようだが、行政とNPOだけでよいのか。企業・大学との関係もあり、皆の知恵を集めて話しをする必要がある。予算がないと話にならないが、企業との協働が必要。

NPOと行政の協働会議があって、その中で企業等との関係などをテーマとして論じればよいのではないか。

( 所長 ) ファンディングは重要だが、そういう場が必要であるというなら別に検討する必要があると思う。企業等との連携が特に現れるのが災害時であるが、組合も含めた企業、大学等では一翼を担って活動してもらっている。

提案をまとめて、広く賛同者を募ってという継続分があるが、どうすればよいのか。

( 能島幹事 : 協働会議は継続するので、提案ができれば事務局に送って欲しい。 )